

第1章

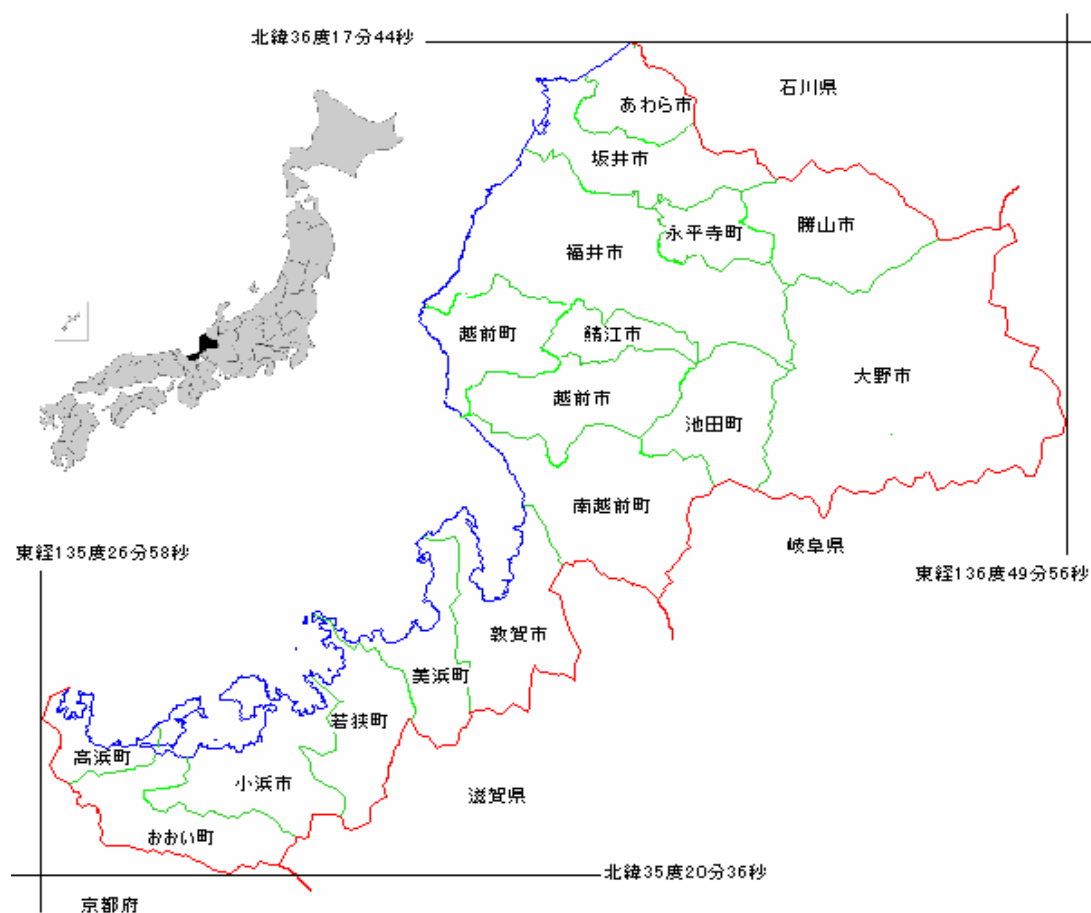
県土の概要

第1章 県土の概要

1. 自然的特性	1
(1) 位置と面積	1
(2) 地 形	2
(3) 地 質	4
(4) 気候および植生	5
2. 社会的特性	6
(1) 人 口	6
○ 人口の推移	6
○ 人口の増加率	6
○ 市町別人口増減状況（対前年比）	7
○ 自然増加および社会増加	8
(2) 世 帯	9
○ 世帯数・世帯増加率の推移	9
(3) 就業人口	10
○ 産業別就業者の割合の推移	10

1. 自然的特性

(1) 位置と面積



(嶺北地域 7市4町、嶺南地域 2市4町)

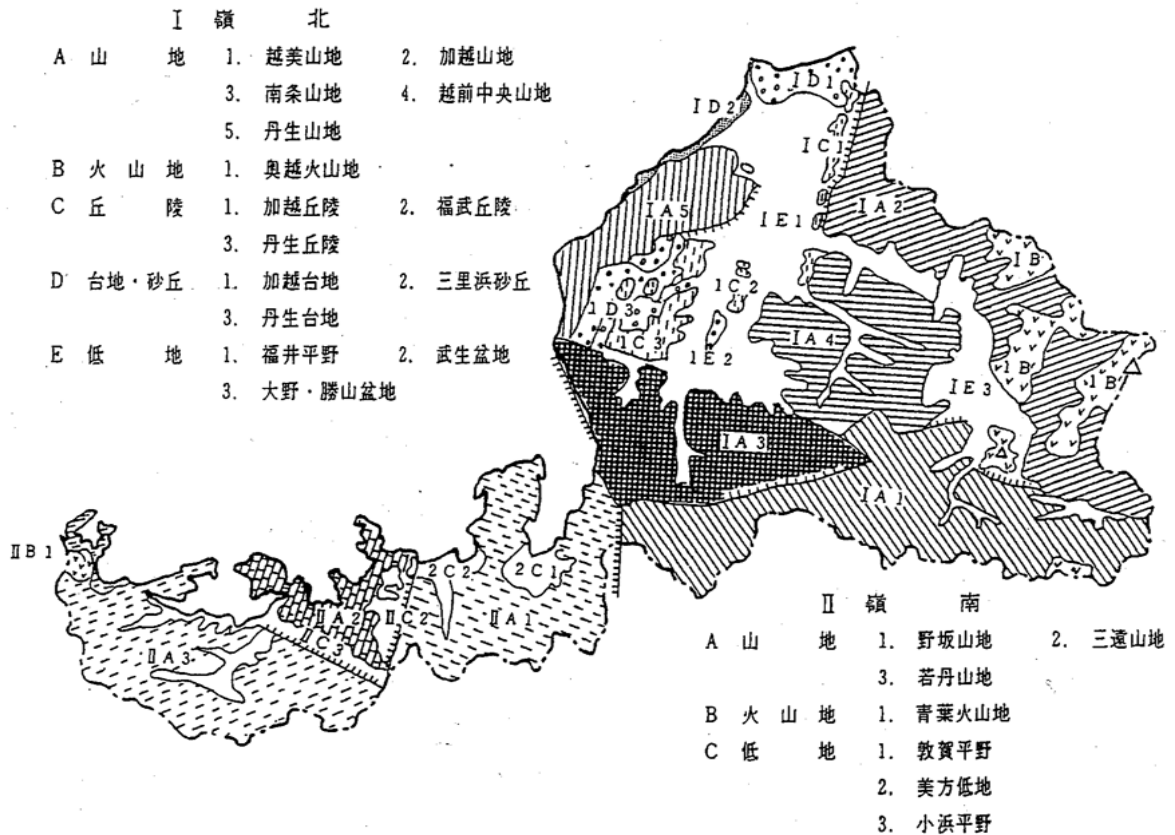
面積 4,189.3 km² (平成19年10月1日現在)
可住地面積 734.2 km² (平成18年10月1日現在)

福井県は、本州日本海側のほぼ中央に位置し、北は石川県に、南東は岐阜県、南西は滋賀県・京都府に連なり、北西は日本海に面している。東西約70km、南北約130kmに及び、総面積は約4,189km²で、延長約410kmの長い海岸線が走っている。位置を経緯度で表せば、次のとおりである。

- 極東 東経 136度49分56秒 (大野市油坂峠南東1,550m)
- 極西 東経 135度26分58秒 (大飯郡高浜町鎌倉北西500m)
- 極南 北緯 35度20分36秒 (大飯郡おおい町染ヶ谷南東2,000m)
- 極北 北緯 36度17分44秒 (あわら市北潟砂丘北端)

(2) 地 形

福井県地形区分図



資料：「福井県自然環境保全基礎調査報告書」（昭和 51 年 福井県）

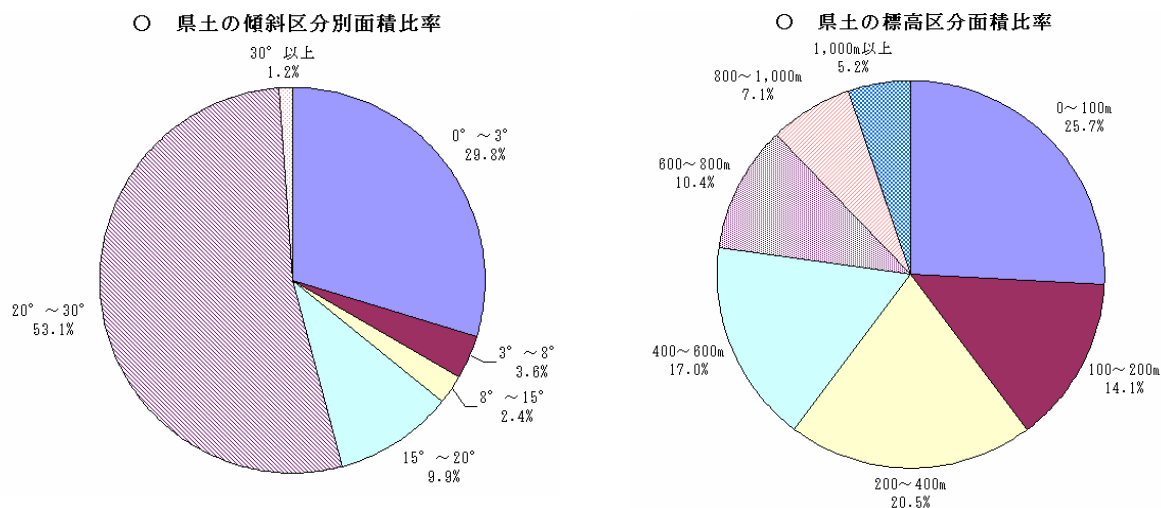
本県は、JR「北陸トンネル」が貫通する敦賀と今庄の間の山中峠（標高 389m）、木ノ芽峠（標高 627m）、栃ノ木峠（標高 539m）を結ぶ約 10 kmにわたる山稜を境として、北東部を嶺北地域、南西部を嶺南地域に大別している。

嶺北地域には、岐阜県境方面に広く連なる越美山地、石川県境にそびえる奥越火山地とそれに続く各山地、中央に越前中央山地、西部に丹生山地、南に南条山地の各山地が並んでいる。このうち、奥越火山地は最も高くてけわしい標高 1,600m～2,000m の火山岳が並び、谷も深いため冬の季節風を受けて本県の最多雪地となっている。越美山地は、古生代・中生代の古い生成のため、かなり削磨されて、1,000m 余の定高性をもつ高原性山地となっている。その他の山地は数百 m の中山性ないしは低山性山地で、南条山地を除き、新生代第三紀の新しい山地である。

加越山地と越前中央山地北部の西側は断層で落ちて福井平野を形成し、その南には丹生山地・南条山地、越前中央山地の 3 つの山地に包まれて、山ろくと島状小山地に沈降の特色を見せる武生盆地が続き、両者は文殊山の突出部で分けられている。また、越美山地、奥越山地、加越山地および越前中央山地の間に陥没した大野盆地・勝山盆地があり、福井平野と地溝状の九頭竜河谷でつながっている。これらの低地の内部はいずれも河川の沖積物で埋められているが、大野盆地は九頭竜川、真名川、清滝川による扇状地堆積と、一部は火山噴出物で埋められている。武生盆地は主に日野川により、福井平野は九頭竜川・足羽川により、それぞれ緩い扇状地とそれに続く三角州が生成されている。ただし、福井平野の北部は、加越台地が 30～40m の高さで石川県南部に続き、北西には三里浜砂丘が生成されて平野の下手をふさいでいるので、福井平野は軽い盆地状となり湿田が多い。

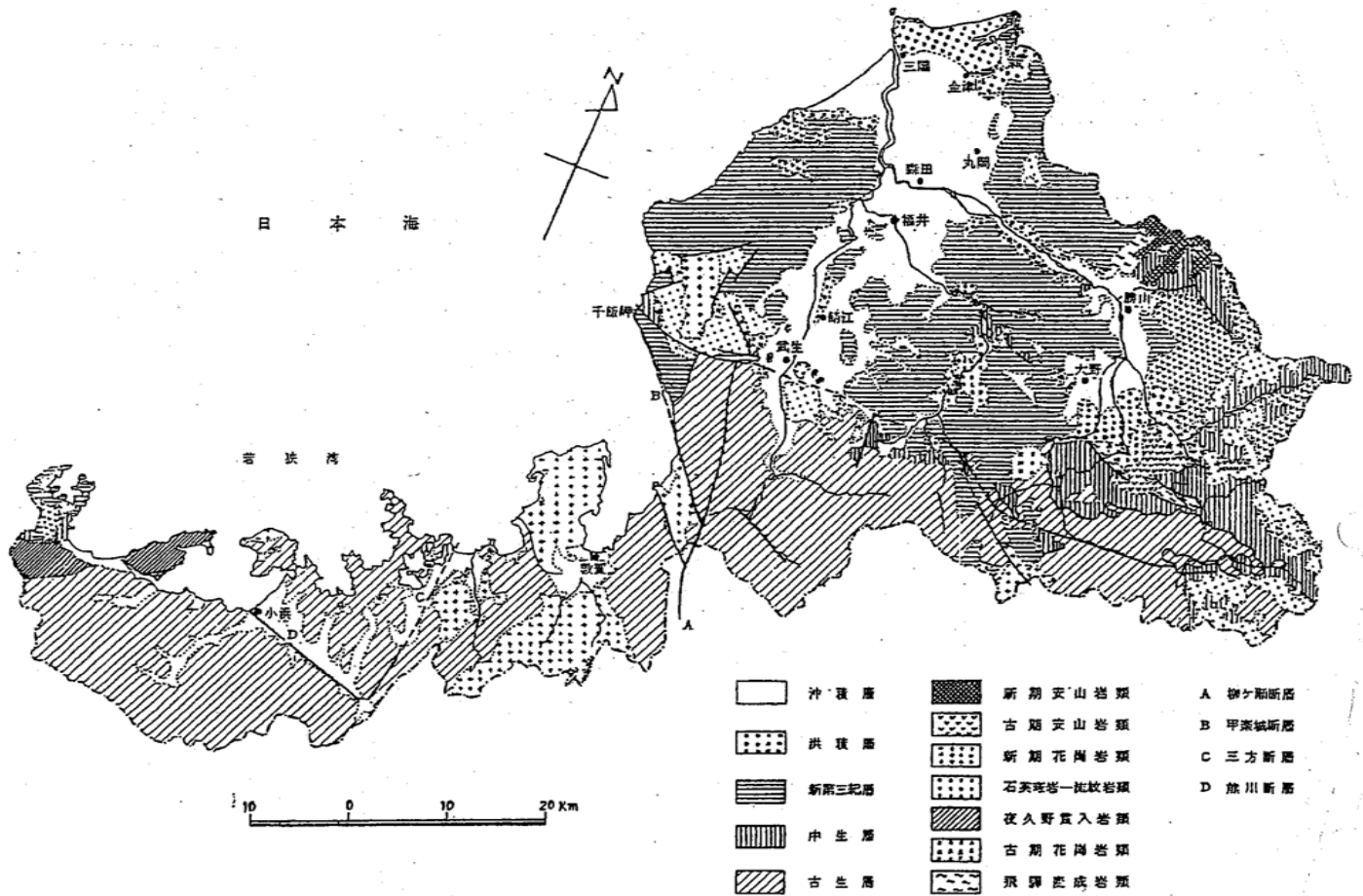
嶺南地域は、木ノ芽峠西側から南下する柳ヶ瀬断層と敦賀港東岸の河野断層によって嶺北地域より一段低く落ちこみ、山地も 700～800m の定高性に下がっている。その上、若狭湾の陥没によって、リアス式海岸と幅狭い沈降山地を主体とする地勢となり、また小浜と熊川を結ぶ熊川断層線以東は、主に南北性の数多の断層で切られ、琵琶湖から続く破碎帯となって小山塊に分裂している。なお、敦賀平野、三方平野、小浜平野は、いずれもこの山塊の間の小平野であり、三方湖は、沈降山地の谷間に水をたたえた沈水湖である。

嶺南の海岸線は、典型的なリアス式海岸をなし、それに伴う豪壮な海食段がいが各所に見られる。そのほか、本県の海岸線は、敦賀湾東岸の若い断層海岸、干飯崎以北の隆起性の岩石海岸、三里浜砂丘・東尋坊の安山岩柱状節理海岸、北潟砂丘など多彩に変化し、県下のほぼ全部の海岸が若狭湾国定公園、越前・加賀国定公園の指定を受けている。



資料：「土地分類図付属資料」（昭和 49 年 経済企画庁）

(3) 地 質



資料：「福井県地質図幅説明書」（昭和44年 福井県）

地質については、日本海沿いの高佐から月ヶ瀬、伊勢峠を経て岐阜県境の油坂峠を結ぶほぼ東西に走る線を境に、北と南ではかなりの違いが見られる。南側には主として二疊紀に属する非変成の古生層が広く分布しているのに対し、北側には飛騨片麻岩類を基盤として、中生層・新第三紀層系が広く発達している。また、大野盆地・勝山盆地の西縁部をほぼ南北に通る線の東側には主として中生層、西側には主として新第三紀層系が分布している。一方、京都府との県境近くには、舞鶴構造帯の延長部が認められ、この構造帯には、古生層・中生層とこれらに侵入した夜久野貫入岩類とが分布する。

なお、県内には、新旧2つの時期に貫入した花崗岩類が各所に見られる。旧期に属するものは、飛騨片麻岩類と密接な関連を持ち、大野盆地、武生盆地周辺などに露出している。また、新期に属するものは、敦賀市、美浜町の周辺、丹生山地などに分布している。

(4) 気候および植生

本県は、日本海側のほぼ中央に位置するため、冬期の季節風の影響を受けて多雪期が顕著であるが、中でも嶺北地域は典型的な北陸型の気候の特徴を示すのに対して、嶺南地域ではやや山陰型の気候の特徴を示す。

このような本県の自然環境に加えて、白山火山系をもって接する本州中央の山岳地帯の影響によって、植生、特に森林の植生は非常に複雑であり、組成的な変化に富む種々の群落帯を含んでいる。水平的には、柳ヶ瀬断層を中心に暖帯性常緑広葉樹林帯と温帯性落葉広葉樹林帯との南北境界線が設定されるなど、本州における重要な移行帯に当たる。垂直的には、本県内最高峰の二の峰（1,926m）をはじめとする諸山塊において、標高約 700m 付近から上部にわたって広範囲に出現するブナ原生林、それから下部のミズナラ林、クリ・コナラ林、標高約 200m から下部に残存するシイ林、海岸沿いのタブ林などの森林帯を構成する。しかし、海岸地形、気候等の要因により地域的な変化に富み、水平的特徴、また伐採や植林の頻発による二次的遷移から、組成的には極めて複雑になっている。

全体としては、海岸丘陵地において標高約 500m 付近から上部にかけて残存し、内陸側では700～800m ぐらいから優先するブナ原生林による北温帯林的特徴と海岸沿いに北上するタブ・シイ常緑広葉樹暖帯林によって特徴づけられる。

なお、白山山系に見られるダケカンバ、オオシラビソなどの亜高山帯林、およびこれらにまじって一部高山草原が出現すること、また太平洋沿岸要素の侵入が比較的顕著なことも本県植生の特徴といえる。

2.社会的特性

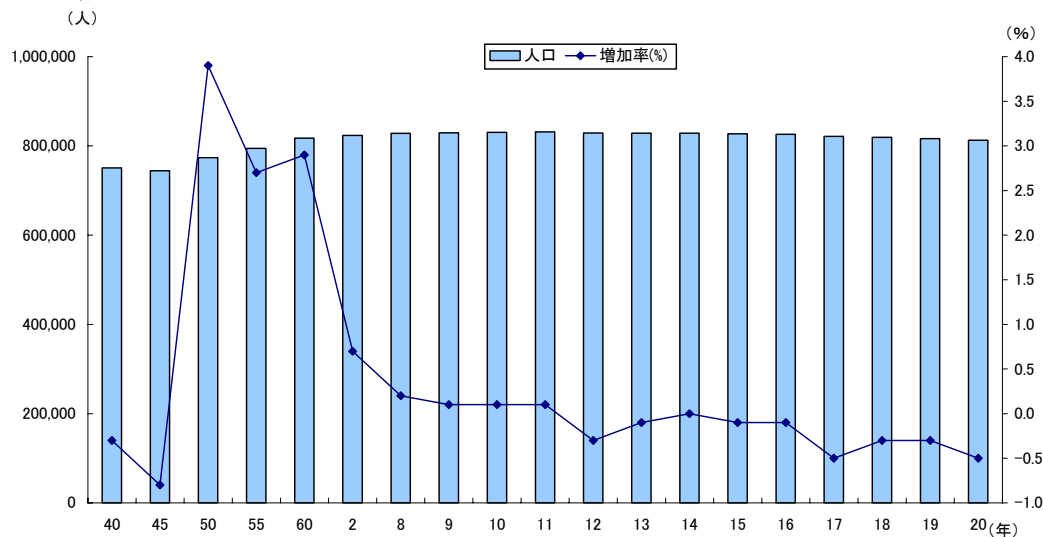
(1) 人口

○ 人口の推移

年次	全県			嶺北地域				嶺南地域			
	人口	増加数	増加率(%)	人口	増加数	増加率(%)	構成比(%)	人口	増加数	増加率(%)	構成比(%)
40	750,557	△ 2,139	△ 0.3	607,652	2,241	0.4	81.0	142,905	△ 4,380	△ 3.0	19.0
45	744,230	△ 6,327	△ 0.8	602,704	△ 4,948	△ 0.8	81.0	141,526	△ 1,379	△ 1.0	19.0
50	773,599	29,369	3.9	627,487	24,783	4.1	81.1	146,112	4,586	3.2	18.9
55	794,354	20,755	2.7	646,337	18,850	3.0	81.4	148,017	1,905	1.3	18.6
60	817,633	23,279	2.9	664,441	18,104	2.8	81.3	153,192	5,175	3.5	18.7
2	823,585	5,952	0.7	667,690	3,249	0.5	81.1	155,895	2,703	1.8	18.9
8	828,249	1,253	0.2	675,234	1,319	0.2	81.5	153,015	△ 66	0.0	18.5
9	829,344	1,095	0.1	676,284	1,050	0.2	81.5	153,060	45	0.0	18.5
10	830,429	1,085	0.1	677,301	1,017	0.2	81.6	153,128	68	0.0	18.4
11	831,222	793	0.1	677,837	536	0.1	81.5	153,385	257	0.2	18.5
12	828,944	△ 2,278	△ 0.3	676,459	△ 1,378	△ 0.2	81.6	152,485	△ 900	△ 0.6	18.4
13	828,502	△ 442	△ 0.1	676,205	△ 254	0.0	81.6	152,297	△ 188	△ 0.1	18.4
14	828,285	△ 217	0.0	676,533	328	0.0	81.7	151,752	△ 545	△ 0.4	18.3
15	827,110	△ 1,175	△ 0.1	675,732	△ 801	△ 0.1	81.7	151,378	△ 374	△ 0.2	18.3
16	825,880	△ 1,230	△ 0.1	674,867	△ 865	△ 0.1	81.7	151,013	△ 365	△ 0.2	18.3
17	821,592	△ 4,288	△ 0.5	672,358	△ 2,509	△ 0.4	81.8	149,234	△ 1,779	△ 1.2	18.2
18	818,975	△ 2,617	△ 0.3	670,779	△ 1,579	△ 0.2	81.9	148,196	△ 1,038	△ 0.7	18.1
19	816,198	△ 2,777	△ 0.3	668,801	△ 1,978	△ 0.3	81.9	147,397	△ 799	△ 0.5	18.1
20	812,479	△ 3,719	△ 0.5	666,117	△ 2,684	△ 0.4	82.0	146,362	△ 1,035	△ 0.7	18.0

(注)：構成比は、全県人口に対する当該地域人口の比率

○ 人口の増加率



資料：「国勢調査」、「福井県の推計人口」(福井県政策統計課)

総人口は、平成 20 年 10 月 1 日現在で 812,479 人となった。

人口増加率は、昭和 50 年代は 3.0%前後の横ばい状態で推移し、平成 3 年以降は 0.1～0.3%と低増加率が続いたが、平成 20 年は 0.46%減少し 9 年連続の減少となった。

なお、平成 20 年 10 月 1 日現在で 1 km²あたりの人口密度は 194 人で、全国総人口に占める本県人口の割合は 0.64%である。

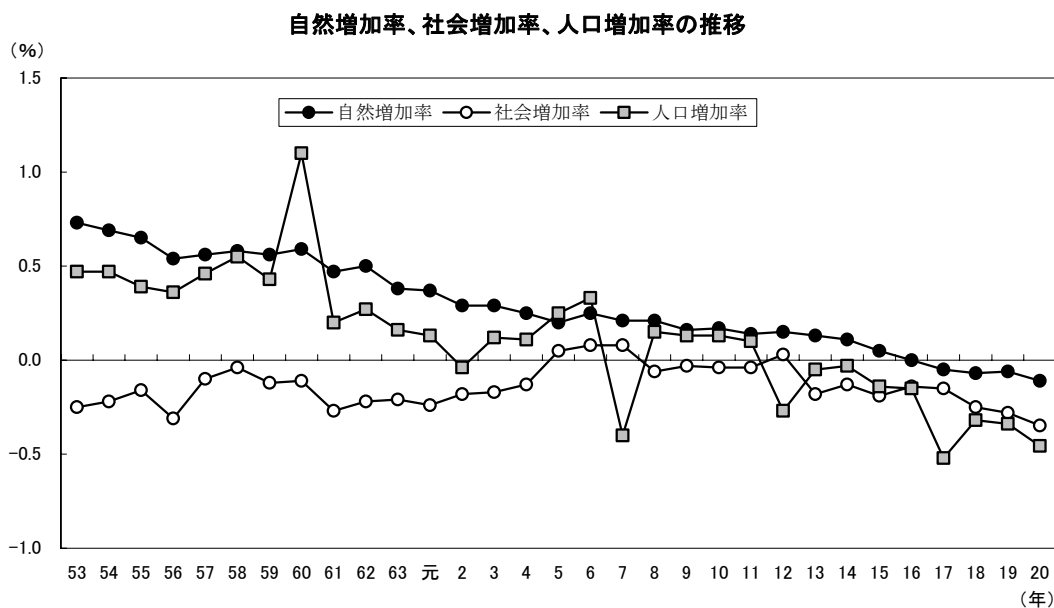
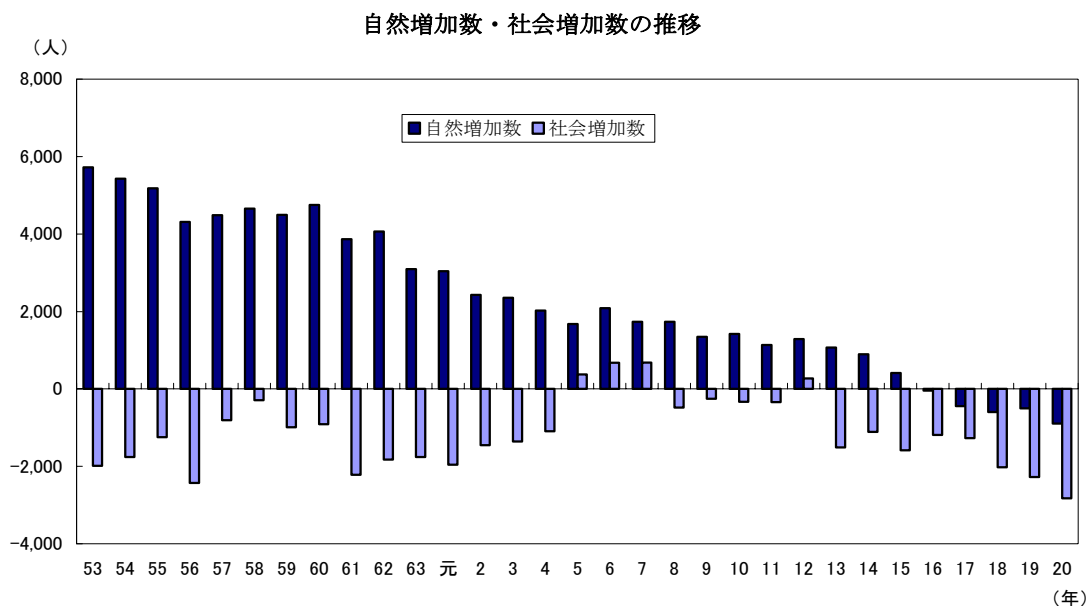
○ 市町別人口増減状況（対前年比）

（単位：人）

市町	平成 19 年	平成 20 年	増減数	増加率 (%)
県	816,198	812,479	△ 3,719	△ 0.5
嶺北地域	668,801	666,117	△ 2,684	△ 0.4
福井市	268,507	268,173	△ 334	△ 0.1
大野市	36,890	36,344	△ 546	△ 1.5
勝山市	26,422	26,011	△ 411	△ 1.6
鯖江市	67,372	67,494	122	0.2
あわら市	30,781	30,660	△ 121	△ 0.4
越前市	87,163	86,405	△ 758	△ 0.9
坂井市	92,434	92,300	△ 134	△ 0.1
永平寺町	20,567	20,469	△ 98	△ 0.5
池田町	3,272	3,187	△ 85	△ 2.7
南越前町	11,909	11,778	△ 131	△ 1.1
越前町	23,484	23,296	△ 188	△ 0.8
嶺南地域	147,397	146,362	△ 1,035	△ 0.7
敦賀市	68,183	68,051	△ 132	△ 0.2
小浜市	31,502	31,285	△ 217	△ 0.7
美浜町	10,838	10,607	△ 231	△ 2.2
高浜町	11,358	11,220	△ 138	△ 1.2
おおい町	9,067	8,974	△ 93	△ 1.0
若狭町	16,449	16,225	△ 224	△ 1.4

資料：「福井県の推計人口」（福井県政策統計課）

○ 自然増加および社会増加



資料：「国勢調査」、「福井県の推計人口」(福井県政策統計課)

自然増加率は、出生数の減少により、ゆるやかに下降している。

社会増加率は、平成5年より横ばいとなっていたが、平成8年以降は下降している。

自然増加(出生数－死亡数)をみると、出生数は第2次ベビーブームである昭和48年の13,472人をピークに年々減少が続いた。平成6年は8,639人で5年ぶりに前年を上回り、その後は再び減少が続いていたが、平成20年の出生数は前年より51人多い7,316人となった。

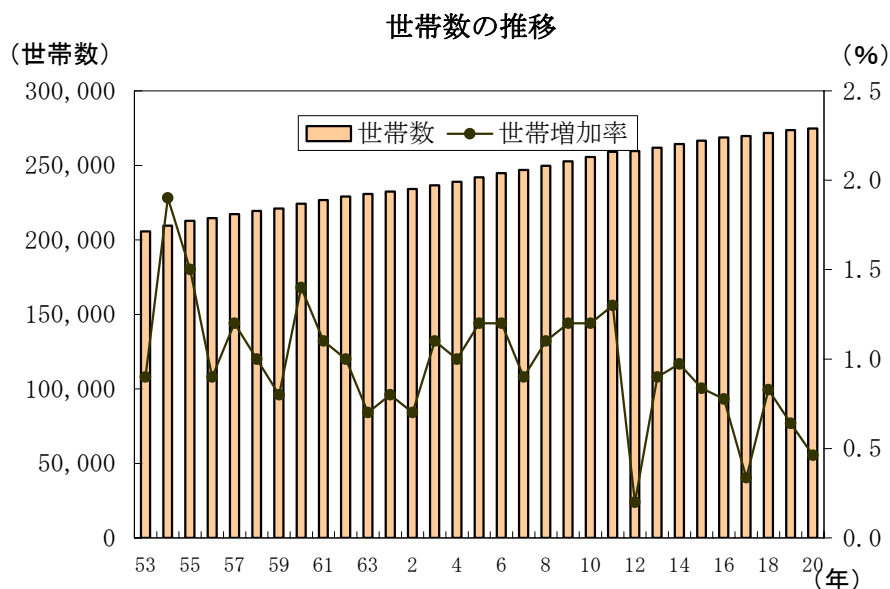
一方、平成 20 年の死亡者数は前年より 445 人多い 8,210 人で、この 1 年間の自然増加は △894 人となり、19 年に比べて 394 人減少した。

社会増加(県外からの転入者数－県外への転出者数)をみると、県外からの転入者は 13,271 人、県外への転出者は 16,096 人で、この 1 年間に 2,825 人減少し、平成 8 年以降は平成 12 年を除いて転出超過が続いている。

(2) 世 帯

○ 世帯数・世帯増加率の推移

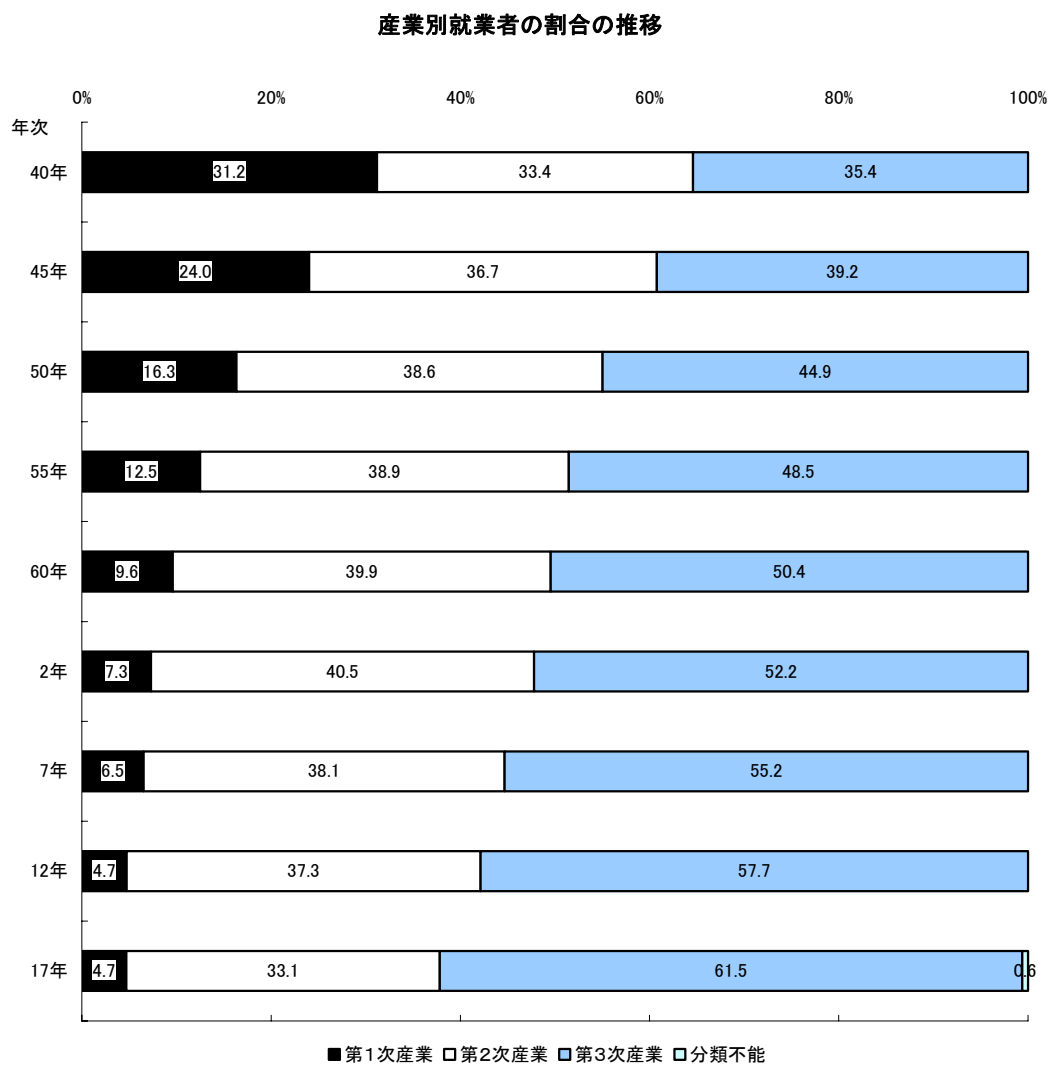
平成 20 年 10 月 1 日現在の総世帯数は 274,817 世帯で、19 年に比べ 1,265 世帯、0.46% 増え、年々増加しているが、1 世帯当たり人員では 2.96 人と前年より 0.02 人減少し、近年、核家族化が進んでいる。



資料：「福井県の推計人口」(福井県政策統計課)

(3) 就業人口

○ 産業別就業者の割合の推移



資料：「平成 17 年国勢調査」(総務省)